

くほありさ
久保有沙さん

大成建設
株式会社



建設業界をめざす
若者へ!

仮設の囲いを取り外し、完成した建物が全景を現すと、達成感で一杯になりますよ! 昔と違って、休みもしっかり取れるから、趣味の舞台鑑賞を映像で楽しんだりしています。

ある1日の業務フロー

- 7:30 出社、準備
- 8:00 朝礼・危険予知活動
- 8:30 作業開始、現場巡視・チェック
- 10:30 事務所でデスクワーク
(工程表作成、写真整理など)
- 11:45 職員・職長との打ち合わせ
- 12:00 昼休み
- 13:00 昼礼、現場巡視・チェック
- 14:30 デスクワーク
- 16:00 現場で最終確認
- 16:30 デスクワーク
- 18:00 退社



PROFILE
大阪府生まれ。大阪工業大学工学部建築学科を卒業。2018年、大成建設株式会社へ入社。事務所・製薬工場の施工管理を担当。

未来の女性所長が語る
モノづくりの魅力

工事概要
発注者：シオノギファーマ株式会社
工事名称：208棟連続生産施設構築工事
(既存建屋内未実エリアの実装工事/約400㎡)
施工場所：大阪府摂津市三島2丁目5番1号
工期：2020年3月19日～2020年11月25日
施工者：大成建設株式会社

上司と
打ち合わせ。



タフで明るく元気に
個性を強みにして

V R(バーチャルリアリティ=仮想現実)機器を装着すると、現場の映像が現れ、部材が頭上に落下! 自分自身が足場から転落する映像も。各現場にVR設備が整い、職員や職人が仮想体験で学ぶシステム。新入社員の頃は、建設業界の先進技術に驚いた。AI(人工知能)技術を用いた機器や電子黒板といったデジタルツールも充実していた。

幼少期から工作などが好きだったので、工業高校・大学で建築を学んだ。入社後、世界的建築家・隈研



職方とのコミュニケーションは良好。

吾氏が設計したオフィスビルの現場に配属。事務所内に年齢の近い先輩職員がおらず、当初は大先輩と協力会社の間を伝書鳩のように行き来した。有名建築家の設計とあって、図面は複雑で納まりが難しい。型枠大工から「図面を勉強してから来い。生意気だ。男だったら……」と怒号が飛んだことも。しかし元来、負けず嫌いで、明るく切り替え上手な社交派。すぐに現場でかわいがられ、安全靴をプレゼントされたこともあるほど。

現在は、製薬工場の内装工事を手掛ける。広い空間に壁を造り、防塵のクリーンルームに仕上げるので、シビアな納まりが必要。コロナ対策も厳重で、職方のマスク着用はもちろん、体調管理にも細やかに気を配る。上司は「いつも元気で、職人さんと円滑に交流できるところが長所。課題として、もう少し自分でものを考えるようにしよう」と目を細める。

IT技術の進歩はめざましい。だが、本人は「泥臭く建築にかかわり、自分の手で造り上げていくのが醍醐味。建物が目に見えて完成していく様子を、ライブで体感できます。座ったままの職種より、動き回る「施工の仕事」が私は好き」と言い切る。将来、女性所長になることをめざしている。

未来へのとびら



よしかわだいき
吉川大樹さん

りんかい日産建設
株式会社

建設業界をめざす
若者へ!

「建設をやりたい」という強い気持ちさえあれば、きっとこの仕事を続けられますよ。働き方改革が進み、休暇も確保できる時代。僕もまた、愛車で舞鶴の記念館など絶景地を訪ねてみたいです。

ある1日の業務フロー

- 7:30 出社、準備
- 8:00 朝礼・ラジオ体操・安全確認
- 8:30 作業開始、現場チェック
(材料検収、作業確認、健康状態の確認など)
- 11:30 事務所でデスクワーク
(翌日の打ち合わせ資料作成など)
- 12:00 昼休み
- 13:00 職員・職長との打ち合わせ
- 13:30 現場チェック
(安全確認、進捗写真の撮影など)
- 17:00 デスクワーク
- 18:30 退社



PROFILE
新潟県生まれ。日本大学生産工学部土木工学科を卒業。2018年、りんかい日産建設株式会社へ入社。施工管理を担当。

最新機器やICTを使いこなし、
「形として残るもの」を造る

測量や動画作成
に使うドローン。



工事概要
発注者：舞鶴市
工事名称：次期最終処分場整備工事
(処分場本体工、第3調整槽設置工、防災調整池、キャッピングシート工)
施工場所：舞鶴市大波上他地内
工期：2019年3月31日～2022年1月31日
施工者：りんかい日産・アトラス・水嶋工業特定建設工事共同企業体

「土木をやりたい!」
それがすべての始まり

最初に困ったのは、まるで怒っているように聞こえる関西弁。ずっと関東甲信越で暮らしてきたが、就職後の配属先は神戸市。キツク感じられる言葉に「わ、すみません」と反射的に答えたことも。

建設業を営む家庭に育ち、高校・大学と野球に打ち込んで剛腕投手に成長。けがで引退したとき、「土木をやりたい」という自分の心の声を、はっきり認識した。

神戸市の砂防堰堤工事、香川県での造船設備工



所長や先輩から多くを学ぶ。

事(ジブクレーン基礎改修)等を経て現在の現場へ。家庭用ごみの焼却灰などを埋め立てる、舞鶴市の次期最終処分場整備工事。材料の受入検査や、作業状況の撮影、書類作成などを幅広くこなす。

ドローンでの測量や動画作成・編集も任されている。メカやICT(情報通信技術)に強く、ドローン専用ソフトの操作も難なく覚えた。上空からの動画を、発注者の舞鶴市へ定期的に提出している。また、自動追尾型の光波測距儀といったハイテク測量機器も使い、「現場は面白い」と実感している。

この現場には年齢の近い職員がおらず、大先輩ばかり。だが、他社の先輩と共に働き、多様な考え方や工法を学ぶことができる。この現場のように、建設業界には複数企業が共同企業体(JV)を組織するシステムがある。新しい現場、先輩や職方から多くのノウハウを吸収し、自分の引き出しを増やしていける業界。その一番の魅力は「造ったものがずっと形として残ること」だと語る。

上司は「一つひとつの仕事に、より強い責任感を持って取り組むこと。実際に経験すれば見えてくること、分かることがさらに増える」と激励する。そうした経験を積み、いずれは所長として自分の現場を持つのが夢だ。

現場近くには、引き揚げやシベリア抑留の歴史を伝える舞鶴引揚記念館があり、展望台から引揚橋や港の絶景が望める。

